

農大生が取り組んでいる花きの研究

和歌山県農林大学校
花きコース長 神谷 桂

今回は平成 29 年度卒業論文の中から池ノ内華奈さんの「切り花ハボタン“プラチナケール”の品種特性」について紹介します。

本校では毎年 12 月第 1 日曜日に開催する農林大祭や年末の販売に向けて切り花ハボタンを栽培しています。丸葉系の赤は“初紅”、白は“晴姿”と県内で一般に栽培されている品種を栽培しています。池ノ内さんは最近、注目されて栽培面積も増加している“プラチナケール”に興味を持ち、農林大での栽培品種との特性差の調査を行いました。

“プラチナケール”は葉のブルームがなく、光沢のあるメタリックな質感で花束としても使い勝手が良いのが特徴です。また、葉数が多く、着色も早い点も長所として挙げられます。病害虫や肥料切れに関しては注意が必要とのことです。種子は高価であります。

試験内容

今回の試験は本校の露地ほ場において、実施しました。供試品種は株式会社タキイの“プラチナケール F1 ルシールワイン（以下ワイン）”、“プラチナケール F1 ルシールバニラ（以下バニラ）”を、対照品種として“初紅”、“晴姿”を用いました。基肥は平成 29 年 7 月 21 日に有機配合肥料(8-8-8)を窒素成分で 4kg/10a 施用しました。は種は 7 月 24 日に畝幅 100cm に条間 10cm、株間 10cm の 6 条で直播きしました。収穫は 11 月 28 日となりました。

調査項目は「外観」、「草丈の推移」「切花長」、「切花重」、「茎径」、「外葉径」としました。

外観：“ワイン”の着色部は落ち着いた紅色で、“バニラ”は着色部の白と葉の緑とのコントラ

ストが美しく両品種とも光沢とメタリックの質感があり、高級感がありました（図 1）。



“F1 ルシールワイン”



“F1 ルシールバニラ”

図 1 外観

草丈の推移：は種から 2 ヶ月後の 9 月 12 日では“バニラ”は 48.9cm であり、その他品種は 35~40cm でした。3 ヶ月後の 10 月 25 日では“ワイン”は 46.3cm、“初紅”は 46.5cm、“バニラ”は 67.2cm、“晴姿”は 55.8cm と赤系は供試品種と対象品種の差は見られませんでした。白系は供試品種の方が 10cm 以上の差が見られました。赤系と白系の差も大きくなりました。

た。4ヶ月後の最終調査では“ワイン”は51.3cm、“初紅”は51.7cm、“バニラ”は76.6cm、“晴姿”は63.4cm となりました。赤系は供試品種と対象品種では長さの差は見られませんでした。白系は供試品種の方が13cmの差が見られました。赤系と白系の差も7~10cmと大きくなりました(図2)。

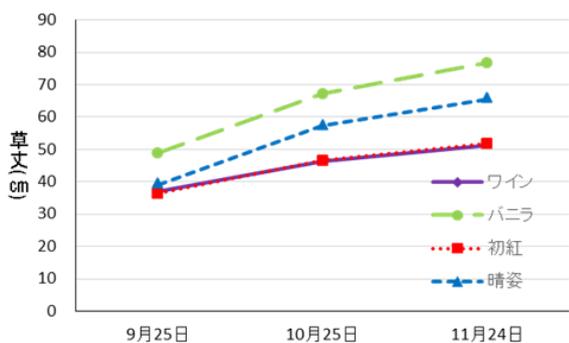


図2 草丈の推移

切花長：“ワイン”は51.3cm、“初紅”は51.7cm、“バニラ”は76.7cm、“晴姿”は63.4cm と赤系は同程度、白系は供試品種の方が長くなりました(図3)。

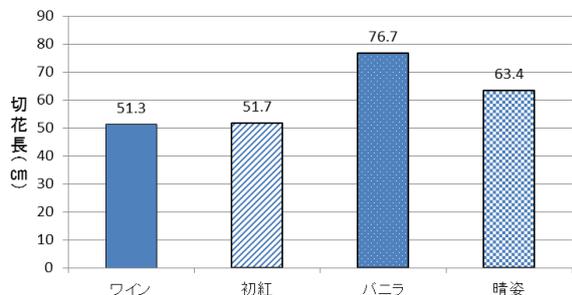


図3 切花長

切花重：“ワイン”は176.2g、“初紅”は122.6g、“バニラ”は226.6g、“晴姿”は158.9g と供試品種の方が重くなりました(図4)。

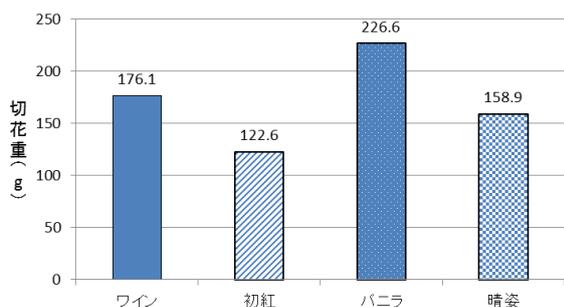


図4 切花重

茎径：“ワイン”は14.3mm、“初紅”は14.8mm、“バニラ”は15.3mm、“晴姿”は12.7mm と大きな差はありませんでした(図5)。

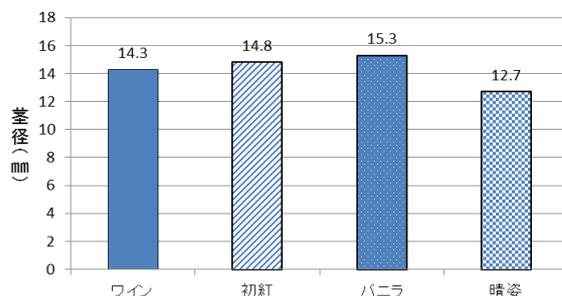


図5 茎径

外葉径：“ワイン”は18.5cm、“初紅”は16.3cm、“バニラ”は18.2cm、“晴姿”は15.7cm と供試品種の方がやや長くなりましたが大きな差とはいえない程度でした(図6)。

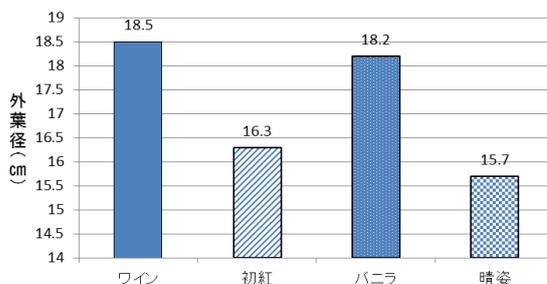


図6 外葉径

今回の調査では紅、白とも供試品種と対照品種との差はあまり大きくありませんでした。はっきりとした差が表れたのは外葉径でした。

今回の供試品種の“プラチナケール”に関しては一般的な品種差(メリット)は高級感にある外観と外葉の大きさであると確認出来ました。

赤系、白系共にほぼ同じ様な品種切花長に関して赤系品種では供試、対照品種とも60cmに満たなかった。これは生育初期のかん水量が足りなかったと考えます。

今後、農林大ではわい化剤を使用することによるポット栽培についての調査をしたいと考えています。